

発行日 平成12年12月5日
 発行所 江別市生涯学習推進協議会
 編集人 広報小委員会 (山岸 肇)
 連絡先 江別市教育委員会生涯学習担当
 (高砂町24・381-1062)

秋の釧路で

こんな収穫

公民館大会

私は音楽をこよなく愛する者として市内の公民館を頻繁に利用する。そのためか、つい先ごろ「公民館運営審議会」なるものの委員に任命された。そして、この秋「全国公民館研究集会」という会議に出席すべく、教育委員会の方と公民館の職員の方、そして同じ審議委員の飯田さん(江別市文化協会)とともに釧路に行ってきた。

○

今年の夏の不快なほどの蒸し暑さとは打って変わり、秋の道東は抜けるような青空の下、かすかに潮のかおりが漂うさわやかな風が心地良かった。釧路市内の複数会場を利用するこの会議には、全国から1400人も人が集まっていた。我々江別チーム同様、みな色々な立場で公民館に関係する人たちだ。新米審議委員の私は、とにもかくにも「梟の目」と「兎の耳」をもったつもりで(道東の大自然を目にしたせいかな)、見聞させるものすべて吸収しようと思っていた。

私が参加した第3分科会は『成人の学習』、テーマが「成人の学習参加を促す公民館活動のあり方」というものだった。

た。基調発表というところで2人の方が発表された。一人目の士別市公民館長の発表は「マイプラン・マイスタディ」事業の事例発表だった。これは、文字通り市民(主に公民館利用団体)が自ら講習会等の企画を立て運営しているもので、もう16年も続いているそう。みんなが学びたいことを自主的に企画すればアイデアは次から次へと出てくるから、益々生涯学習も広がりを見せるなあと感じた。だけど、一方でそれらを取捨選択し、これはOKこっちはダメという立場の人は相当眼力のある人ではないかならな

次に「男女共同参画の促進に向けた公民館活動について考える」というテーマで、活発な討論が行われた。司会者の指示でマイクを持ったスタッフが集団内

を素早く移動していた。し、気が付くと途中からは同じ場所を行ったり来たりしているだけで、決まった人だけが発言を繰り返していた。「男性の意識改革が必要だ」「女性も責任というものを意識しないと」などの意見の中、公民館で人権教育の一環として女性の人権を考える機会を設けているという発表が(富山市だったかな)印象に残った。

数多くの発言とたくさんの方の参加の中で目に焼き付いているのは、公民館と異業種との連携の成果について述べていた60歳代と思しき男性の姿だ。緊張のあまりマイクを持つ両手は胸の前でぶるぶると震えていた。けれどその目は壇上をしっかりと見つめ、少



公民館、笑顔とヤル気の会おう場所

弦楽アンサンブルとファミリークリスマス2000

2000.12.16 SAT 14:30~
 at コミュニティセンター
 ♪ヘンデル オンブラ マイフ
 ♪J・S・バッハ
 二つのヴァイオリンのための協奏曲 第2楽章

♪チャイコフスキー
 弦楽セレナーデより ワルツ
 ♪楽しいクリスマスソングメドレー
 ほか

【チケットは一般が500円、小学生以下は無料です】

Merry Christmas
 お問い合わせは
 384-0678
 板東さんまで



年のようにきらきらと輝いていた。何故かとても新鮮であった。その夜私は私の所属する「江別弦楽アンサンブル」と交流のある「釧路交響楽団」

四大学連携

ら・ら・ら 江別塾

出だしから数字の話をすると、その名を「ふるさと江別塾」という。

江別市の人口は約12万人である。一方、市内の4大学(2つの短期大学部も含む)に通う大学生の数は、およそ1万2千人、札幌などから通っている人もいるので一概には言えないが、ほぼ10人に1人が大学生ということになる。これはもう大学のまちといつていい。そして、生涯学習の時代におけるこのアドバンテージを活かすべく、ついに江別に市民大学が誕生した。

記念すべき一年目はテーマを「江別学をめざして」とし、11月4日の浅井学園大を皮切りに、札幌学院大、酪農学園大、北海道情報大と、毎週土曜日、それぞれのキャンパスを舞台に講義を展開した。塾生は高校生から高齢者まで幅広く職業もさまざま。来年度以降は塾生も運営委員となり、企画から運営まで参加する予定。興味のある方は、市教委生涯学習課 ☎381-1062までお問い合わせください。

日々楽しむ私の生涯学習

人物デッサン



田岸 昇さん

子どものころ、多少絵が上手だったこともあり、美術学校が希望でした。戦争中でそれを断念し、工業専門学校へ進学しました。卒業後、初めは専門分野の鋳物工場に就職したものの、専門から次第に遠ざかりました。

民放ラジオが始まった年から、広告代理店でラジオ・テレビの広告に関って約30数年、ここで定年となりました。広告と美術は深い関係にあります、本格的に絵を始めたのは、退職の数年前に絵画サークルで油絵を描きだしてからです。

平成元年から大麻デッサン会に参加して、裸婦デッサンを描きはじめました。美術分野すべての基礎であ

るデッサンの習練には、人体デッサンが最も大切と言われます。地元江別の美術団体北陽会のメンバーが始めたデッサン会は今年で12年になりました。会員には中学・高校で美術を教えていた方々が居られるので、毎回多大な刺激を受けてデッサンをしています。

例会は月2回ですから、年に24回、12年で約300回になります。一回に2〜3枚描くとして、900枚以上になるでしょう。しかし、満足出来る作品は一割以下です。新しくデッサン会に入られる方には「馬に喰わせる程作品が溜まってこの程度」と、自嘲しながら今月も例会に出掛けます。そして、廃業スーパードにも参加しています。

5〜6年前、幼稚園児の孫娘が「あ・裸だ」と声をあげてから、カミさんに居間の壁面に裸婦デッサンを架けることを禁止されました。「裸婦デッサン描けば命の泉湧く」と言った具合で眼と手が利く限り学習は続きます。

(大麻デッサン会)

旅はみちづれ

「仕事を含め過去はあまり振り返らず、今迄の人生より



「おもかじいっばあーい」「ボク船酔いです」
(青空子どもの広場)



堰代日出子さん

遥かに短いであろうこれからを、ゆったり楽しく過ごしてゆきたい」退職の時そう決心しました。あれから3年、今は旅行をしたり花を見つめたり、少し忘れていた原始林を散策したりと、結構私なりに充実した日々と思っているこの頃です。殆ど友人

必要に迫られて

「IT革命」という言葉が様々なメディアを通じて飛び交い、先のサミットにおいてもメインテーマとなりました

が、私もこの「IT革命」を、仕事上必要に迫られて接しなくてはならなくなりました。現在私の勤めている会社で

と出掛けるのですが、在職中は着かず離れず程度のお付き合いができていずとも失礼していたのに、退職して時間ができた私を友人達が声をかけて下さり誘って下さるおかげで、随分いろんな楽しいことに出会えました。

九月中旬には女四人で道東十勝方面へ旧友との再会も含めキャンプをしたり、秘湯の宿を訪山したりと、六日間車で約千三百kmの旅を楽しんで来ました。長距離運転も体力が勝負。元気なうちに実行したのですが、実に楽しい六日間でした。疲れも忘れ

「まだまだいけるね、私達!!」学生時代を思い出しながら懐かしい友との再会も実現し、思いがけず大収穫の旅ができました。

人生八十年とも言われる位人間の寿命も延びたことが。まだまだいろんなことにチャレンジできそう。そして何より沢山の良い友達に恵まれていることに感謝です。この友情は楽しみも共有する私の財産でもあり、いつまでも大切にしていゆかなければと思っっています。

(野幌代々木町在住)

は、資料・データ等は全てパソコンによりデジタル化されるようになり、一人が作成した資料は、フロッピーやメールによって関係者に渡されるようになっていきます。つまり、パソコンが使えないと仕事が進められない状況にあるということです。

入社したての15年程前にはパソコンを触ったこともなかった私が、会社の仕事をするために必要に迫られてパソコンを使い始めるようになり、



土野浩樹さん

ただ、このITというのは日々進化していて、ひとつの

得意先への見積書や商品写真の提出もメールでやり取りするようになりました。そして、今となつてはパソコンは無くしてはならない「道具」「手段」となっています。さらには、自社の販売管理に関するプログラムの企画も現在社内でおこなつていて、この15年間の進歩に自分自身でも驚いている次第です。

最後に最近の悩みなのですが、パソコンのキーボードを打つようになってから、いざ漢字を書こうとすると、忘れてしまつてることが多くなりました。これも現代病のひとつなのかもしれません。

(青年会議所)

事務局より

いよいよ今世紀も残すところあとわずかとなりました。21世紀この「ら・ら・ら」も今以上に充実した内容にすべく日々アンテナを張り巡らせていますが、読者のみなさまからの寄稿や情報提供も随時お待ちしております。

<歓迎します>

- ・同好会などのPR、メンバーの募集を載せて欲しい
- ・わたしのまわりの日々生涯学習に励んでいる人を紹介したい
- ・うちの団体のイベントを宣伝して欲しい、取材して欲しい

※ちなみに次号は3月ごろ発行の予定。また、上記以外でも、サークルや指導者を紹介して欲しいなどのご要望もお待ちしております。

【事務局】教育委員会生涯学習課

TEL 381 - 1062

FAX 382 - 3434

Eメール kyouiku@ykn.gr.jp

お気軽にお問い合わせください。



地球の未来に何ができるのか

の方が深刻な問題を内在している。真つ直ぐ(一律)が悪い、凸凹(不揃い)が悪いという物の見方は、日本の教育の基本だった。子どもを枠に決めて一つのタイプの人間だけをつくり、個性の強い子は「協調性なし」のレッテルを貼られた。実際真つ直ぐなきゅうりは枠にはめてつくられている。

つまるところ環境の問題も人の心の問題に関わってくる。地球を汚すのも他の動物を絶滅させるのも人間のエゴによる。科学技術が環境破壊の対処療法足り得ても、我々がエゴを抑制しない限り地球の未来はおびやかされ続けるだろう。この種のテーマは今後も継続して開催されることを期待している。



スーパーウルトラじいさんグループ

は、メンバーが亡くなって新しいメンバーを補充し生じた「ロス・ナランホス」は、メンバーが亡くなっては新しいメンバーを補充し

て伝統的なキューバ音楽「ソ」を75年間も継承してきているグループだそう。ポーカーは86才と81才の元気いっばいのおじいちゃん。楽器を演奏しながら高齢とは思えない艶のある声で歌い、腰をリズムカルに動かし踊っている。ダンスにつられて観客の中南米の人達が「待ってました!」とばかりに踊り始めた。打楽器の心地良いリズムが響きわたる。トランペットは時折哀愁を帯びたメロディーを奏でる。とにかくかっこいい!一曲目から観客を立ち上がらせ、最後まで私達を魅了してくれた。そしていつの間にか彼らが高齢だなんてすっかり忘れてしまった。

最後は、観客を次から次へと誘いながら会場を回り、割れんばかりの拍手と歓声の中で幕は閉じられた。腰が痛いなんて言ってもらえない。今日はすごいパワーを貰った。心から感動し感謝したコンサートだった。



会場はカリブの熱気におおわれた

「ロス・ナランホス」パワーに感謝!

◇クラブ ラティノ 羽場洋子

曲がつたきゅうりは何故美味しい

何故美味しい

当協議会主催の第6回生涯学習講座は、メインテーマを「地球の未来をおびやかすもの」として、環境問題、食糧問題など多角的に地球の未来を真剣に考えさせられる内容だった。

どの回も、我々を取り囲んでいる環境がいかに悪いのかを再確認させてくれたが、その中で特に印象に残った言葉があった。食糧問題をとりあげた三島徳三氏(北大農学部)の一言、「きゅうりは曲がつてるやつほど味がいい」というもの。多くの人が気づいていないと思うが、スーパーなどで売られているきゅうりは真

つ直ぐなものばかり。これは、その方が箱詰めするの都合が良いのと、見てくれがいい方が売れるからというのが理由である。

前者の箱詰め云々の理由は、現在の日本の食糧事情を顕著に表している。旬の心を忘れた日本人は季節に関係なく食料を求め遠くから輸送してくる。当然、輸送するには真つ直ぐなきゅうりの方々が好ましい。これは主に生産者側(輸送者も含む)の理由。一方、後者は消費者側の理由だが、よく考えるとこちら

予 告!

ついに実現!

2001.3.31 SAT

市民合唱団と札幌による

「第九」演奏会

於：江別市民会館大ホール



市内学習ポイント⑬

私の宝物

わが心の風景

三上 信迪

物が豊かで平和な日本に暮らしていても、太平洋戦争という戦時下の教育を受けた私にとっては、毎年やってくる8月15日の終戦記念日は特別な熱い思いと共に通り過ぎて行きます。

一昨年の夏休み長野を訪れる機会があり、むかし文学少年に変わった私にとって憧れの地である小諸の懐古園を訪問しました。同時に娘のすずめで上田市の小高い丘にある「無言館」をふと訪れたときです。剥き出しのコンクリートの建物は油絵の展示館です。美術学校に入りながら戦地に赴いた若き画学生の遺作がそこ

子育てをがんばっているお母さん達へ。幼児期の子どもの情操教育に役立つもの一つに絵本があります。ひざの上に子どもをのせ絵本を読めば、親子の良いコミュニケーションにもなります。家事の手を休めて、至福の時を過ごしませんか。

現在、絵本も日本のもの外国のもの種類が多く、どんな絵本を読めばいいのか悩みにありました。一つひとつの作品を前にするとキャンパスは私に何かを訴えているようです。志半ばで絵筆を断たなければならなかった彼らの無



長野県 千曲川

念の思いと、その死は一体何だったのかという戦争の虚しさを感じました。展示されている父母・恋人に送られた手紙を読み、痛烈な思

むことがあると思います。そんな時は図書館に行って相談するのもいいでしょう。でも意外と穴場と呼べるのがまちの児童文庫です。ここでいう児童文庫とは、自宅を開放して絵本を中心に本を貸し出ししてくれる所で、江別には3軒あります。大麻の「風の子文庫」(真島

特集 まちの児童文庫

いを感じながら館の外に出ると、焼き付くような日差しです。その日は丁度終戦記念日でもありました。

その隣のまちが小諸市です。55年前、教育の全てが私達少年を洗脳し、自ら志願して戦争に赴かない若者は非国民と教わりました。そして終戦、一転して平和と民主主義の国へ変貌。同時に一人の文学少年が生まれました。その最初の出会いが島崎藤村であり、そのゆかりの土地にきて、「千曲川旅情のうた」を偲ばせる小諸の古城跡を散策した時、私の10代の原風景がそこにありました。平和を願

「百の説教より一冊の本」と語ってくれたのは真島さん。取材に行った日は月に一度の読み聞かせの日で何組かの親子が集まっています。大きな子が小さな子達に絵本を読んで聞かせ、彼らの小さな目は一冊の本にきぎ付

上がってしまい、世代間交流をはかることができました。児童文庫は本を通じて人と人とながたつがっている、そんな所です。気軽にドアをノックしてみてください。住所および開館時間は、

さん宅)、東野幌の「草の芽文庫」(佐藤さん宅)、緑町の「文庫クマのプーさん」(斉藤さん宅)です。



ママはどんな本をえらぶの



絵本の世界に心を奪われたようです。

編集後記

偶然ですが先日長野県に行ってきました。晩秋の日本アルプスは真っ白に雪化粧して里の紅葉を鮮やかに写す壁紙のようでした。信州のお土産話にはふさわしくありませんが、幸運にも『始皇帝の兵馬備展』を見る事ができました。全てを手にした男が最後まで欲した「不老不死」への執念が一体一体の兵馬から伝わってくるようで、見る者を圧倒する迫力がありました。